

教職員による学校評価の分析(中面のグラフ参照)

- ・A+B(十分に達成と達成)の割合が8割を超えたのは、12項目中9項目である。昨年度より増加しているが、教職員による自己評価がやや辛めであるといえる。
- ・1番評価が低かったのは、昨年同様「読書+家庭学習+家族と会話」で、約7割であった。保護者のアンケートでも同様の項目が一番低い。教職員の改善策にもあるが目標を立てた後の見取りや振り返りを教師が工夫しないと定着を図れないと考えられる。
- ・逆に昨年度より大きく上昇したのが、「評価テスト達成80%」である。A+B(十分に達成と達成)が67%から83%になっている。昨年度の反省を踏まえ、学校全体で学力向上策に取り組み、「みのりタイム」や、サマースクール、学力向上強化月間、学力テスト直前特訓など、改善策が機能し、成果が見られた。
- ・A(十分に達成)に注目すると、「体育の時間に全力疾走し、走力・持久力を高める」が39%となった(全項目中1位)。A+B(十分に達成と達成)の割合も9割近い。全職員が体力向上に向かって授業改善に取り組んだ成果であろう。

保護者による学校評価の分析(中面のグラフ参照)

- ・全体的に見ると、A+B(十分に達成と達成)の割合が約8割に達した項目は7項目で、昨年度より1項目減ってしまっている。
- ・1番評価が高いのが、昨年同様に「毎日しっかり朝ごはんを食べて、登校する」で、約94%であった。
- ・逆に評価が低くなっているのは、「体力を高めるため、家庭でできる運動を進んで行い、体力貯金を増やす」と「テレビやゲームの時間を減らし、読書時間や家庭学習時間、家族との会話時間が多くなるよう努力する」で、約6割弱であった。両方ともDの努力を要するが、10%近くになっている。教職員の改善策でも触れたが、取り組みの状況を定期的にチェックし、認め・励まし、継続させる取り組みを学校と家庭で協力しなければ、成果がなかなか表れないようである。
- ・このことから、学校で成果を上げた学力向上や体力向上を、長井小学校の保護者に拡大し、今まで以上に学校と家庭が協力し、改善策を示し、継続して取り組んでいかなければならないと考えられる。

学校関係者による評価(2月の学校評議員会より)

- ・落ち着いたクラスが多かった。学力向上の成果が上がっている。パソコンを使った授業や、食事を含めた、家庭生活との関連はどうか。
- ・「ご飯を必ず食べる」の割合が、94%であった。しかし、残りの6%はどのようなのだろうか。そこが気になった。家庭が安定すれば、学力もつく。6%の子の実態を把握し、対応に生かす取り組みをしてもらいたい。
- ・下校時にあいさつがしっかりできる子は、約1割である。中には、あいさつしても返してくれなかったり、知らん顔の子もいる。授業参観をしたり、校内ですれ違うときにはできるあいさつが、どうして下校時になるとできなくなるのか。地域としても考えていきたい。
- ・スポーツタイムの改善を行い、業前運動にしたり、授業中に全力疾走の機会を設けたりした成果が、表れ出しているようだ。来年度は、伸びる子は更に伸ばし、全体目標・個人目標を具体的に示し、褒めたり、認めたりしながら取り組ませて欲しい。
- ・下校の仕方では気になることがある。お迎えの車が多いことだ。しかも、よその家の子まで乗せて帰るのを見かける。万が一のときの補償は大丈夫なのであろうか。学校から説明しておいた方がよい。